

横田滋さんの死去を悲しく悔しく思います。

早紀江さんにかかる言葉も見当たりません。ブルーリボン活動の一環で豊橋へお招きしたとき、講演が終わり新幹線ホームで見送る際にご夫婦にお約束しました。

「拉致被害者者全員帰国できるまで、また私が生きている限りめぐみちゃんの「必ず救い出す」ポスターを車に貼って走りまくるから」と、そしてご夫婦と握手しました。そのときの温かな手のぬくもりを覚えております。お元気だったご夫婦の情景が目には浮かびます。

北朝鮮による日本人拉致事件は今から約 50 年前から北朝鮮工作員と国内の協力者によって行われていました。特に日本海側の海岸等であった不明者の事件については、地元警察は北朝鮮の拉致であろうとわかっていたそうです。しかし、国として事件を公式に認めたのは 1999 年です。西村眞後議員が脱北者からの証言から北朝鮮の日本人拉致を認めさせています。

2002 年小泉訪朝、そして 5 人の拉致被害者帰国から、その後全国的に拉致被害者救出の運動が広がりました。早期救出を願う団体、グループ、草の根の市民らはブルーリボンを胸につけて拉致被害者を救出する国民運動を展開してきました。そして 22 年かけて集めた署名は 1,341 万 4,325 筆に上り、政府に提出されています。

10 年も前になるかと思いますが、元航空幕僚長田母神氏が講演会で「私が現役の頃、日本海側沿線で北朝鮮の工作船を発見し本部へ確保しますか？」と確認すると「ほっとけ」と言われました。」と話していました。

バブル崩壊による朝鮮総連ビル売却についても、国の外郭団体ともいえる整理回収機構が抑えたにもかかわらず、国はこれを拉致被害者救出の交渉に使うこともなかったのです！！国家は体制を守るために国民を犠牲にするということです。

こんな不条理は許せません。正義が負けてはならない。正義は勝たねば！

正義は勝つ。なぜならば正義が勝つまで闘う人はいます。いなくなることはありません。正義が勝つまで闘いを続けます。拉致被害者を救い出すまで闘います。

滋さんのご冥福を祈ります。

私の車に貼られた「めぐみちゃん 必ず救い出す」の日焼けしたポスターを新しいポスターに張り替えました。

「ブルーリボン・豊橋」代表 寺本泰之